



No.5

● 1974. 11

# 支部だより

支部長のことば / 明日への課題  
土木の視界 / 都市と水環境  
関西土木工事にどんなものがあるか  
支部行事・活動の報告 その他



## 明日への課題

土木学会関西支部 支部長 南 俊次

### 略 歴

ミナミ シュンジ  
南 俊次

(大阪府出身)

- 大正7年1月20日生
- 昭16.12 東大(土)卒
- 昭21. 8 大阪府土木部
- 〃 26. 4 大阪府枚方土木出張所長
- 〃 31. 7 建設省道路局地方道課長補佐
- 〃 33. 6 建設省道路局土木専門官
- 〃 37. 4 建設省中部地方建設局道路部長
- 〃 38. 8 建設省道路局二級国道課長
- 〃 40. 4 阪神高速道路公団調査役
- 〃 41. 6 阪神高速道路公団計画部長
- 〃 43. 5 阪神高速道路公団理事
- 〃 49. 7 同顧問

去る8月20日～21日、犬山において74年度日本技術士会全国大会が開かれた。私も客員の1人として参加したが、広く建設以外の他部門の人達の技術士としての連携した立場における今日のとらえ方、動き方等についての真剣な論議に接し、広汎な分野を抱えたわが土木学会の運営上参考すべき点が多いように思われたので、当日行われた数々の論議の一部を紹介しながら、私見を述べてみたい。

今日、我々土木の各分野で仕事をするものにとって、最大の難関はむしろ土木学自体ではなくて、**環境アセスメント**ではないかと思う。衛生工学に古くから関与していた一部の土木技術者を除いて、騒音・振動・排気ガス・日照・電波障害・水質汚濁等、どれをとっても自らの力のみでは対処し得ない新しい課題であった。振動については古くから土木の分野でやっていたと思われるかも知れないが、ここにいう振動は一般家屋に対する防震であって、地震の被害から土木構造物を守る耐震設計の立場ではないから、これも新しい問題として我々を悩ませている。

ローマクラブの報告書にみられるように、食糧・資源・汚染のいずれをとっても、全地球的に人類の存続が僅か何十年という目先の将来において危ぶまれている。恐ろしいことはノストラダムスの大予言をひき合いにし出すまでもなく、科学者の研究の成果として暗い未来を暗示している点にある。

地球が人類の為にのみ存在するものでないこと、地球自体に限界があること等に思いを致し、広く他分野の技術者が科学的に決論づける事柄に耳を傾け、さて土木の一分野を担う自分は何に情熱を傾けるべきかを考える以外に今日の生き甲斐を見出すことは困難である。

最後に技術士会全国大会の**宣言**を紹介する。

**科学技術のアセスメントは、もともと技術士業務の一翼である。われわれは、ここにこれを新たにし、卒直に過去を省み、現在を評価して、とこしえの明日を築こう。**

表紙によせて：港神戸の新しい顔、ポートアイランドに行ってみた。荷役を終えて憩うコンテナクレーンの林の向こうに夕陽が沈む。背後の荒涼とした未利用地の水たまりでは、数十羽のアジサシが舞い、ときおり、かわいらしい水音をたてていた。(U) (写真撮影：渡部 正)

## 行事報告

### マンネ教授特別講演会

1974.4.25 於 京都大学

1974.4.26 於 大阪大学

本年3月ベルギーのリュージュ大学のマンネ教授は日本学術振興会の招きに応じて来日され、名古屋ならびに東京において構造工学に関するセミナーを開かれた。土木学会関西支部は、日本側の主催責任者である名古屋大学の成岡教授に御願いし、京都大学および大阪大学で、それぞれ「鋼箱桁橋の最近における事故について」と「曲線格子桁の特性について」の特別講演会を開催した。

マンネ教授は直交異方板の解法として知られるギョン・マンネの方法を提唱された世界的な構造工学者であり、また国際橋梁構造工学協会 (International Association for Bridge and Structural Engineering) でも活躍しておられる世界的権威である。

4月25日京都大学で行われた特別講演は、1969年の第四ダニューブ橋の熱座屈事故、1970年のミルフォード・ヘヴン橋およびウェスト・ゲート橋の架設時の落橋事故、および1971年のコブレンツ橋の架設時の落橋事故の詳細な報告（これらについては土木学会誌 (1974) 6月号 57頁を参照されたい）とこれらに共通する構造工学的諸問題の解析に関するものであった。こ



マンネ教授 (左) と福本助教授 (名大, 右)



長崎のマンネ教授

れらの事故についてはそれぞれ事故調査委員会で原因究明が行われたが、マンネ教授は重要な因子として、座屈に対する安全率のとり方が極めて低くまた安易に決定されている点を指摘した。最近の箱桁構造では材料の合理的な利用を考慮して、さまざまな応力状態の複合した作用に耐えるように設計されているが、この場合、応力状態は必ずしも単純な理論では把握しえず、構造物のそれぞれの特質を十分に考慮して、設計上の極限強度を決める必要があり、特に局部の補剛材の接合や初期ひずみなどの影響を十分に検討しなければならないことを指摘した。この結論は、板に関する非線型方程式の解析と多くの実験的検証に基くもので、また現実の構造物の設計のあり方に具体的な形で成果を示している点で意義深いものと考えられる。

マンネ教授は2回のセミナーのほか、東北大学、京都大学、大阪大学などで講演されるとともに、日本各地を旅行された。日本料理も大好物であり、箸のあつかいもわれわれと何ら変わらない程である。1976年(昭和51年)に日本で国際橋梁構造会議 (IABSE) が開催されるが、わが国のよき理解者でもあるマンネ教授は第二作業委員会 (Working Committee II) の委員長として再び来日される予定である。

日進月歩の工学分野では、今後国際交流が積極的に進められなければならないが、その中において土木学会関西支部の果す役割も決して少くないと考えるものである。(白石成人)

## 土木の視界

# 都市と水環境

室 田 明

ヨーロッパや中東アジアでは、泉や噴水が庭園の大切な要素であったが、古来わが国ではそのような造園技術は発達しなかった。勢いよくほとばしる水はとりわけ乾燥地帯では豊かさの象徴でありえただろうが、あまりにも豊富で良質な水に恵まれていたわれわれは、水をデコレーションとして見るという経験をもたなかった。

しかし、今や都会の子供達は地下街の「……の泉」で見る人工的な流れ以外に、本当の「せせらぎ」を知らなくなってしまっている。岸边にスマレがゆらぎ、メダカが群れる小川は都会では唱歌の世界に遠ざかってしまった。最近、しばしば起こる渇水の時期には、子供といえども生活用水の貴重さは身にしみて体得するだろうけれども、水に親しむという情操はとみに失なわれつつある。都会人にとって都市河川は平時は悪臭をはなつ巨大な下水道であり、時には氾濫して被害を与える好ましくない存在以外の何ものでもないだろう。

河川に対するこのような感覚の劣化はまことに憂うべきものがある。

従来、河川工学は大別して治水と利水の二本立てで進んで来たのであるが、最近はこの「保水」という考え方を打ち立てるようになった。保水とは、正確には「水環境の保全」を意味し、それは必ずしも維持用水の確保や水質保全といった物理・化学的側面に限定された領域のみならず、生態的、社会・経済的、感覚的等、広い価値を含む水環境を考えている。と同時に、空間的にも在来河川工学が主たる対象と

した河道に施す技術にとどまらず、積極的に河川流域をも技術の内に包含せざるをえない趨勢にある。

その例を治水工法にとって述べてみよう。

近代河川工学における治水技術は、そのほとんどが河道に加えられたことはあらためて申すまでもない。洪水の疎通能力を増強するための河道改修、捷水路の開さく、築堤、さらには洪水調節のための貯水池の造成等、線状の、いうならば一次元空間としての河道で対処しようとして来た。しかし、最近の急激な流域の変遷、とりわけその都市化は流域からの洪水流出を激化し、計画高水流量の大幅な改訂を行わざるをえなくなった。しかし、都市河川では河道の拡幅、堤防のかさ上げはもはや物理的、社会的にはほとんど不可能である。やむをえない必然の結果として、流域という面空間での洪水貯留を期待せざるをえない。

現在、数県を除くほとんどの都道府県では宅地開発指導要綱を定め、そこで大規模な宅地開発に際しては、その開発に伴う流量増分を貯留・調節しうる程度の防災調節池を設置するよう行政指導している。あるいは、大都市の代表的都市河川では、比較的低効率の低い低湿地を一括買収し、これを洪水時の遊水池として利用すべく、防災公園、防災緑地等の計画が進捗しつつある。

さらに一歩進めて、以上のような集中的な遊水池による調節でも不十分である場合には、各家庭毎に降雨貯留のための池を造ってもらって各戸の自然調節（アナあきダム方式）を期待する各戸貯留槽の構想がめばえつつある。この構

想はきわめて抜本的ではあるが大きくいえば私権の侵害、こまかくいえば水槽の建設費負担、その保守責任等、解決すべき多くの問題がある。平時、池に金魚を飼っている人達が出水前の予備放流をして池を空にしてくれるだろうか。

何はともあれ、都市とその近郊の治水のためには、もはや河道で処理することができず、流域全面がそのことについても責を負う時代に入りつつある。

生態系に対する配慮も今日の土木技術者に課せられた重要な課題である。ただし、生態問題に深い注意を払うのは、人間以外の生物の健全な生存が人類生存のための一つの指標であり、かつ生態系の保全がわれわれ人類の豊かな生活に寄与すると信ずるからであって、決して生態系に関する配慮のあまり治水工法がひづまされて、流域住民の生命と資産を危険にさらすようなことがあってはならない。近畿では現在、淀川の基本高水の改訂に即応して大幅な河道改修

工事が進められつつあり、低水路断面の浚渫拡大のため在来の高水敷はその様相を一変することになる。先般、天然記念物に指定された幻の魚「イタセンバラ」や「ヨシ」・「アシ」の群生地の保全が強く要望されているが、これらを含み淀川の景観はいかにも自然景観そのものように見えるけれども、今日の淀川の高・低水敷は明治6年、招きによって来日したオランダの河川技術者、デ・レーケの指導による大規模な河川改修の遺産であり、ほぼ百年を経過したとはいえ人工の河川環境そのものである。河川技術者は治水にかかわる前述の拘束条件のもとで、極力こうした既成環境の急変を回避するべく努力しているが、流域の安全度向上のためやむをえず行われるこのような水環境の変化に対応して、今後新たな生態系はどのように変遷するのであろうか。またもし好ましい変化の方向があるとすればそれを促進するのにどのような手立てがあるのか、生態系の研究者の助言をまちたいところである。



カット：松井繁之（阪大）

## 調査研究

# 橋りょう下部構造診断委員会雑感

### 1. 委託研究第1号の誕生

昭和47年度より関西支部において委託研究の受入れが可能となったが、何分初めてのことなので、支部幹事会等でもこれが逆に支部の経理を圧迫し、また運用等の面で支部事務局に大きい負担をかけるおそれがないだろうかと心配の種はつきなかつた。しかし、支部活動を活発にし、少しでも会員各位に寄与できるものがあれば問題に取組みたいという意欲も盛んで、「ともかく具体的にやってみないことには……」そんな意見が強かったように覚える。

委員会は、こんな背景の中で昭和47年10月商議委員会の議決を得て誕生した。

### 2. 各種計器の展示実演場の出現

橋りょう下部構造の健全度を論議する場合、現場の立場からは、簡易な測定あるいは調査による資料を、ある基準値と照合して健全度を判定することが望まれた。この判定基準を設定するためには、一つの対象物の変状を調査するのに、どの計器でどのように測定すれば効果的であるか、また、それらの現象が忠実に記録されるのか、さらに、各計器による測定結果の差異をどのように解釈するかなどの問題を解決する必要もあるので、昭和48年7月、京阪電鉄宇治川橋りょうにおいて橋脚の変位・振動測定が実施された。

こういう趣旨から、この現場には京都大学、東京大学地震研、国鉄技研その他メーカー各社のご協力を得て、種々の測定器具が動員され、川原は丁度計器類の展示実演場の観を呈した。一度にこれだけを揃えて作動させることは滅多にないだろうと思われ、関係者一同大きい興味と期待をもって作業が進められた。また、営業線で試験車を走行させてのテストであるため、

測定前日までに計器類をとりつけ徹夜で警戒するなど苦勞も多かったが、今ではなつかしい思い出である。

### 3. 備えあれば何もおこらないこと

河床の変化、特に橋脚の洗掘調査もむづかしい問題である。出水時における洗掘現象を確実にとらえることが重要であるが、河相、出水状況の差異に対応した資料は皆無に等しかった。

こんなことから、出水に対応した河床の経時変化を調べることを主眼として、京阪宇治川および木津川、近鉄木津川の各橋りょうに洗掘計を設置した。幸か不幸か、待てど暮せどその夏は流域に大きい降雨も、台風の訪れもなく、期



宇治川橋梁測定対象橋脚



京阪電鉄宇治川橋梁と試験電車



現地測定風景

待した出水記録をとることができなかった。「災害は忘れた時にやってくる」といわれるがまさにそのとおりで、我々があまりに注目したので敬遠された格好になり、関係者一同苦笑いをしたこともあった。

#### 4. 盛況の講習会を喜ぶ

委員会は昭和49年3月をもって完了し報告書が作成されたが、この結果を広く公開して、関

係方面で有効に応用して頂くことを念じて講習会が開催された(8月23日)。

当初、鉄道・道路関係者約100名程度も集って頂ければと考えていたところ、参加者が相ついで208名の多数に達する盛況となった。

残暑きびしいこの1日、聴講された参加各位の熱心な姿に接し、この種問題に異常な関心が寄せられていることを、関係者の1人として嬉しく思った次第である。(志茂山保夫)

### 昭和49年度関西支部役員

(昭和49年5月8日現在)

支部規定が一部改正され、今年から、副支部長(2名)があらたに支部長を補佐することになりました。

以下に、新役員をご紹介します。

支部長 南 俊次(阪神高速理事)  
副支部長 水野 俊一(近畿大学教授)  
森下 卓也(阪急電鉄常務)

#### 商議員

浦江 恭知(三港建) 大友 孝之(青木建設)  
雄山 重義(京都府) 久保田順三(熊谷組)  
沢 慶一郎(滋賀県) 高 棹 琢馬(京都大学)  
高野 浩二(近畿圏) 高橋 準一(和歌山県)  
谷口敬一郎(関西大学) 塔下 真次(兵庫県)  
時友 健(日本橋梁) 中川 治治(前田建設)  
久安 恒雄(京都府) 福本 武明(立命館大)  
星 仰(和歌山工専) 松井 保(大阪大学)  
森井清之助(五洋建設) 矢嶋 哲男(大阪府)  
山下幸弘(富士ピーエス) 渡部 威(関西電力)  
荒石 賢二(水資源公団) 飯塚 卓(阪神電鉄)

今井 正一(京都市) 今本 博健(京都大学)  
木倉 正美(道路公団) 小坂 清(神戸市)  
後藤 清(大阪市) 後藤 隆(協和設計)  
小林 幸蔵(大阪市) 佐野 幹夫(福井県)  
志茂山保夫(京阪電鉄) 末平 治(国鉄)  
田井戸米好(阪神高速) 高田 巖(大阪工大)  
瀧本隆(パシフィック  
コンサルタンツ) 中井 博(大阪市大)  
中岡 芳次(清水建設) 中谷 忠男(川崎重工)  
西 勝(神戸大学) 深田 彰一(国鉄)  
幹事長 室田 明(大阪大学)  
幹事 今井 宏典(阪神高速) 総務担当主査  
河野伊一郎(京都大学) 企画担当 //  
山田 健二(大阪府) 会計担当 //  
上原 基也(中央復建) 編集担当 //  
一力 純(日立造船) 今本 博健(京都大学)  
鶴飼 光夫(大阪工大) 上根 善数(大阪市)  
桑原 弥介(国鉄) 小林 紘士(立命館大)  
近藤 正(道路公団) 三枝 熙和(大林組)  
桜井 春輔(神戸大学) 園田恵一郎(大阪市大)  
竹本 明朗(近畿地建) 谷口 八朗(関西電力)  
西沢 寛(阪神電鉄) 西田 幹夫(兵庫県)  
西村 隆夫(三港建) 松井 保(大阪大学)  
山下 悦治(神戸市)

# 関西の土木工事にどんなものがあるか？

## —— 主要工事リスト ——

### 建設省近畿地方建設局

- 姫路バイパス①
- 宿院高架橋（第二阪和国道）①
- 亀の瀬原位置剪断試験(地すべり対策事業)⑤
- 野洲川放水路事業⑤
- 真名川ダム⑤
- 淀川大堰築造工事並びに関連改修⑤
- 淀川河川公園整備事業⑥
- 国営飛鳥歴史公園⑧

### 運輸省第三港湾建設局

- ポートアイランド建設工事⑥
- 六甲ふ頭建設工事⑥
- 西宮防波堤築造工事⑥

### 運輸省第一港湾建設局

- 福井新港防波堤工事⑥

### 農林省近畿農政局

- 十津川紀の川農業水利事業⑨
- 愛知川農業水利事業⑨
- 湖北農業水利事業⑨
- 国営農地開発事業（北淡路開拓建設事業）⑨
- 東播用水農業水利事業⑨

### 国鉄大阪工事局

- 改良高架化工事（東海道本線住吉東灘間）②
- 改良高架化工事（山陰本線京都二条間）②
- 東加古川貨物駅新設②
- 紀勢本線白浜海南間線路増設②
- 安治川口フレートライナー設備増強②
- 鳥飼貨物ターミナル新設②
- 片町線長尾四条綴間線路増設②
- 福知山線塚口宝塚間線路増設②

### 大阪府

- 浄水場汚泥処理設備工事③
- 泉北高速鉄道事業②
- 大阪北摂霊園事業⑧
- 府営上水道第6次拡張事業③

- 王子川水門築造工事ほか⑤

### 兵庫県

- 国道250号バイパス（明姫幹線）①
- 赤穂海浜公園整備事業⑥⑧
- 古茂江埋立造成事業⑥
- 武庫川流域下水道武庫川処理場④

### 滋賀県

- 琵琶湖流域下水道事業④
- 宇曾川治水ダム建設事業⑤

### 和歌山県

- 広川治水ダム建設事業⑤
- 今津橋（古座川町）①
- 和歌川環境整備事業⑤
- 串本地区浅海漁場開発事業⑨

### 福井県

- 河野有料道路①
- 日野川総合開発事業（広野ダム）③
- 福井臨海工業地帯造成事業⑥
- 若狭リゾートセンター計画（若狭マリーナ計画）⑨

### 大阪市

- 大阪港南港地区整備事業⑥
- 北港廃棄物埋立処分地造成事業⑥
- 地下鉄2号線都島・守口間建設工事②
- 地下鉄2号線天王寺・八尾南間建設工事②
- 大阪市公共下水道今福下水処理場④
- 江野川筋歩行者専用道路①
- 大阪市公共下水道天王寺・弁天幹線工事④

### 神戸市

- 市営地下鉄西神戸線建設工事②
- 新長田駐車場⑨
- 神戸駅前連絡地下道⑨

### 京都市

- 小出石バイパス①
- 佐々里峠改良①

- 桂川筋上野橋架換工事①
- 京阪電鉄木津踏切除去事業①
- 京都市水道第3期配水管整備事業③
- 京都市水道局第3期拡張事業③
- 京都市都市下水路事業(北園都市下水路)④
- 鳥羽処理場拡張事業④
- 鳥羽第2導水渠公共下水道工事④
- 西羽束師川排水機場新設工事⑤
- 洛西ニュータウン建設⑨

#### 日本道路公団

- 山陽自動車道姫路・備前間①
- 近畿自動車道東大阪・門真間①
- 〃 泉南・海南間①
- 中国縦貫自動車道吹田・上月間①
- 北陸自動車道丸岡町・敦賀間①

#### 鉄道建設公団

- 智頭線建設(山陽本線上郡・因美線智頭間)②
- 坂本線建設(和歌山線五条・大塔村坂本間)②
- 宮守線建設(宮津線宮津・旧北丹鉄道河守間)②

#### 阪神高速道路公団

- 大阪府道高速大阪松原線①
- 大阪府道高速大阪西宮線①
- 兵庫県道高速大阪西宮線①
- 神戸市道高速道路2号線(山兵トンネル他)①

#### 阪神外貿埠頭公団

- 神戸港ポートアイランド埠頭⑥
- 大阪南港埠頭⑥

#### 本四連絡架橋公団

- 明石海峡地質地盤調査⑤

#### 関西電力

- 大飯原子力発電所(1, 2号機)新設工事⑦

末尾の数字は工事部門の分類番号を示す

- ① 道路
- ② 鉄道
- ③ 上水・用水
- ④ 下水道
- ⑤ 治山・治水・海岸
- ⑥ 港湾
- ⑦ 発電
- ⑧ 公園・緑地
- ⑨ その他

関西地方の主要な土木工事の概要だけでも知りたい。そういったときの手引きになるようにと企画したのがこのリストである。

作成方法は、今年度支部役員の中から適当と思われる方をお願いして、部門別に、次のような基準で、工事を抽出していただいたものである。

- ① 現在工事中のものであること。
- ② 公共事業であること。
- ③ 工事内容が、学会員の興味をそそるものであること。

そして、それぞれの工事に、原稿用紙1ページ前後の工事概要をつけていただいた。ここでは紙数の関係上、残念ながら工事の件名のみしかあげられなかったが、この工事概要は、支部の今後の活動にとって有効な資料とさせていただく予定であり、機会があれば、会員への印刷配布も考えている。

ひとくちに土木工事といっても千差万別、多種多様であり、上記の基準にしても、かなりあいまいなものであって、工事項目の選択に迷ったものもある。このリストを読者の満足のゆくものにすこしでも近づけるために、今後の新工事も加えて、不完全さは補ってゆくつもりである。

本リスト作成にご協力賜った方々に深く謝意を表したい。(上原基也)

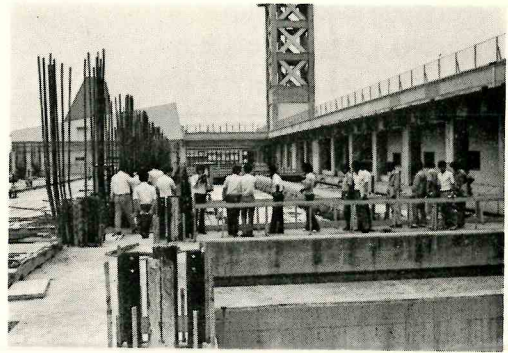


## 学生見学会

### 大阪府施設見学会

1974. 6. 27

鴻池下水処理場  
北部流通業務団地  
村野浄水場



鴻池下水処理場にて

**幹事**「これで今日の見学会は終わりました。この見学会に出席されて何か御意見がございましたらお聞かせ願いたいと思います。」

**和歌山工専**「僕達は工専の一年生ですが、ちょっと難しいところもあったけど、ものすごく為になったと思います。」

**市立大学**「今まで学生見学会では完成品のものを多く見ました。しかし、危険ではありますが、工事中のものをも少し見るようなコースを入れるとか、また大学の4年生にもなりますと就職の問題もありますので、見学会の時期を4月か5月にまわしていただけたら出席者も増え、もっと充実した見学会になるのじゃないかと思っています。」

**立命館大学**「見学会に出席してくれるよう皆に言うのですが、自分の専門分野についてはゼミなんかでちゃんと見ているし、専門以外には興味を持たないので、見学会に特別のことがないかぎり皆出て来ないと思います。それで、見学会では土木の分野でもどんな分野でもいいのですが、社会的に今何が必要とされているとか、今先端で何をやっているかということを紹介してもらえるといいことだったら、見学会というものはものすごく意義があると思います。」

**大阪大学**「今自分の専門だけに興味があるといわれたのですが、僕も下水関係をやっている、水の循環というものを考えて今自分のやっていることがどういう位置付けにあるかということで、今日上水のほうを見せてもらったことは大変為になったわけです。土木というサークルの中でも、何が一番問題になっているかというその辺も知れたら僕はとても役に立つんじや

ないかと思ったんです。また見学といっても現場の人の1とか2とかいう数字的なものを聞くのではなく、何かのこぼれ話みたいなものでもよいから味のある話を聞きたいというのが僕の希望です。」

**大阪大学**「こういう企画をされます場合に、今回衛生工学専門の方は来ていらっしゃるのでしょうか？ といいますのは、専門の方が付いて来られて説明者にどんどん質問していただき、それによって僕らも、そういうことが問題になっているのかというようなことで広く学ぶことができるのではないかと思うんです。ですから今後見学会では、それぞれの専門の方をつけていただくということが僕の要望なんですけど。」

**明石工専**「皆さんのおっしゃられていることは、意義がないということですが、僕はちがって、学生だからいろんなことが知りたいわけです。特に施工法とか建設機械なんていうと、授業では図とか表とかしか使わないからよくわからないんですね。だから今日のシールド工法の映画はすごく為になったと思います。また逆に、こわれるようなところとか、失敗例といったようなものでも見せてもらいたいと思うんです。」

**幹事**「大阪府でもいろいろ土木工事の記録映画を持っておりますので、どしどし御利用していただきたいと思います。本日は学生見学会についての感想御意見をお聞かせいただきましてありがとうございます。皆さんの御意見を参考にしまして、今後の学生見学会の企画を進めてまいりたいと思います。」 (山田健二)

# 地方だより

## 和歌山県

### 和歌川水門工事

和歌山市内を流れる和歌川は、水質汚濁で環境衛生上大きな問題となっていました。和歌川環境整備事業に着手し、その一環として昭和48年度より、水門及びポンプ場を設置し、毎秒40トンの海水を導入して水質浄化をはかることとし、早期完成をめざして努力しています。

公共下水道の完成する昭和60年にはBOD 10ppmに改良される計画です。

この際最も必要なことは、市民の河川に対する愛護

心、公德心の高揚であると感じています。

(和歌山県河川課 藤田智得)



# 解説

## 国土庁

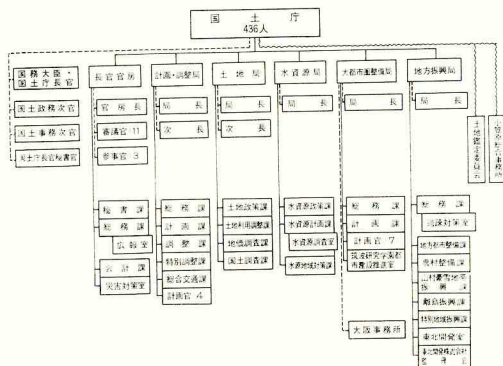
国土庁は、さる6月26日、総理府の外局として、あらたに設置されました。国土庁設置法第三条には、その任務を次のように明記しています。『国土庁は、国土を適正に利用することにより健康で文化的な生活環境の確保と国土の均衡ある発展を図り、豊かで住みよい地域社会の形成に寄与するため、国土に関する行政を総合的に推進することをその主たる任務とする。』

その所掌事務からして、定員は他省庁の関係部門からの振り替え分(経済企画庁総合開発局、首都圏整備委員会、近畿圏整備本部、中部圏開発整備本部、建設省の宅地・地域計画部門、自治省の地域整備部門、等)と純増、計436人で発足、その機構は、長官、政務次官、事務次官のもと、官房および5局が置かれていま

す。(国土庁機構図参照)

各局のおもな所掌事務をみますと、まず長官官房では人事、予算、会計、広報、さらに地域振興整備公団の監督のほか災害対策などの事務を行ないます。計画・調整局では、国土利用計画法に基づく国土利用計画の作成、新全国総合開発計画の点検及び新計画の作成、国土総合開発事業調整費の配分運用、総合的かつ計画的に実施すべき特定の地域の開発整備のための大規模な事業等に係る予算の調整、総合交通施設体系の整備、などの事務を担当します。土地局は、国土利用計画法に基づく土地利用、取引規制のほか宅地供給、地価公示など総合的土地対策の推進を担当します。水資源局では、各省にまたがる水行政の調整、水資源関係の対策、計画の立案、推進、さらに水資源開発公団の監督などを行ないます。大都市圏整備局では、大都市問題の検討や、首都、近畿、中部3圏の整備計画の立案推進、筑波研究学園都市建設計画、琵琶湖総合開発の推進などを受け持ちます。地方振興局は、いわゆる過疎対策などをふまえて、地方都市や農山村の整備に関する施策、各ブロックの開発計画の作成、推進、山村豪雪地帯振興、離島振興、などの事務を担当します。

最後に私達に関係の深い近畿圏の問題ですが、従来の近畿圏整備法及び関連法はすべてそのまま存続しております。ただ、組織としての近畿圏整備本部が法文より削除され、その業務は国土庁大都市圏整備局に引継がれたわけですので念のため申し添えます。



## 人物紹介 三 一女性土木技術者の生活と意見

大阪府企画部企画室総合計画課技師

### 正木 啓子

倉敷市酒津生れの一人子。小学校1年より神戸に育つ。彼女は土木工学科の大学院を卒業した歴とした工学修士である。中学卒業時に工業高校（土木工学科）を志望したが、先生・両親に反対されて断念。しかし、大学では土木工学科に進学するという条件を取り付けたというから、当時から土木志望の意志が堅かったようだ。



中学三年当時、新聞部の仲間と、写真中央。

その土木志望の動機をたずねると、「デカイ事をやりたかった」で、橋梁工学にあこがれた由。ところが大学へ入学後土木を見直し、「計画がなければ物はつくれない」という考えから計画学を専攻。修論の題目は「住環境に基づく居住立地に関する一考察」、その中で大阪府の都市施設一般の満足度に関するアンケートを数量化理論により解析し実態調査と対比した。

本年4月まで土木部計画課で都市計画法に関係していたが、現在、モノレール計画に関する調査に取り組んでいる。新聞を読む事も仕事の一つだそうで、現在の立場が大阪府民と直結しているためであろう。「現在の立場が本当に土木屋と言えるかどうか」と疑問を投げる。理由は、「当初は意識して土木屋の立場をとっていたが、次第に公務員としての目でしか物事が見られなくなってくる」とのこと。

また、「行政とは組織であって個人ではない。個人が強すぎるとマイナスである」ときっぱり断言する。しかし、これは建前であって「個人を生かすこと。職人かたぎや専門バカもいいじゃないか」とちよっぴり本音をあかす。この辺に現在の立場における彼女の悩

みがあるようだ。この点を打開する試みとして、昨年「オープンスペース」をテーマにプライベートな研究会を催した。しかし、その成果が実務に役立てることができかどうか気がかりな様子。

都市計画の将来への展望をたずねると、「現在は行政の転換期である。住民運動により計画の再検討が迫られることが多くなっている。しかし、住民意見にも適切でないものもある。近い将来これらの実状をふまえて都市計画全体を見直すことが必要である。その結果、総合計画へと発展していく」という一つの流れを描いてくれた。

女性の土木屋としてのエピソードは、学生時代実習に行きヘルメットをかぶって測量していると見物人が集ったとか、トンネルの見学では女性であることが絶対分らないようにしてほしいといわれて苦労したとか、いろいろ事欠かないようだ。

趣味は混声合唱と茶道。無線のライセンスを持っているが、現在はやらない。生花は「残酷」だそうで一切しない。彼女は非常にチャーミングで、話をすると歯切れがよく秋空のようにさわやかだ。だが、独身男性にとっては非常に残念なことに、現在新婚5ヶ月のホヤホヤ（旧姓中村）。相手は神戸市役所勤務の法律屋さん。都市計画法についてたびたび教を請うたのがそもそのなれそめ。

今後、数少ない女性の土木屋として新しい道を切り開き、計画関係の分野での活躍を期待したい。（松井 保）

